えんちょう通信

No.６６
令和　４年　４月１５日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤　一男

成長を「待つ」よろこび

４月１２日(火)、年長組の子どもたちがジャガイモの植え付けをしました。

「芽みたいのをうえに向けるんでしょ。うちで、やったことある！」

「食べるときは、芽をとるんだよ。」

「(芽には)毒がはいっているんでしょ。」

さすが年長組ともなると生活経験が豊かになっていて、なかなかの物知りです。

「でも、植えるときは大丈夫なんだよ。芽を折らないようにね。」と先生に教えられています。

それでも子どもたちは、もううれしくてたまりません。おいしいイモになるようにと、指で芽を撫でている子もいます。芽があちこちから出ているので、「上って、どっちかな？」と困っている子もいます。もう大騒ぎです。

そのジャガイモを子どもたちは大事そうに土に埋めて、少しずつ土をかけました。先生と一緒にみんなで「おおきくなーれ。」「おいしいジャガイモになーれ。」とお願いをしました。

そうして「今日は暑いから、たっぷり水をあげよう。」と先生に言われ、じょうろで何度も何度も水をあげました。

次の日の朝、登園してきた子どもたちはリュックを置くと、すぐに外に出てきて、さっそくジャガイモの水やりを始めました。水道と畑を何度も何度も往復して水をあげています。何度も水をあげるものですから、せっかくかけた土が流れてしまい、丸いジャガイモが見えてしまっています。子どもたちのジャガイモに対する思いが伝わってきます。ジャガイモが芽を出したときの子どもたちの笑顔を思うと、私たち大人も嬉しくなってきます。

土を耕すことから始めて、種をまき、水やりをし、あとは太陽と土に任せて、種の力を信じて待つ。どんなに科学技術が進んでも、そこは変わりません。

それは教育も同じで、丁寧に環境を整えて、子どもの可能性を信じて、「待つ」しかないこともあります。

全国の幼稚園長会の会長をされていた新山裕之先生は、子どもを育てる営みについて、次のように書いています。

「花が咲き、実がなるのはずっと先になることもありますが、子どもたちの小さな成長を自らの喜びと感じられる、この仕事の素晴らしさや魅力は多くの皆さんと共有できるはずです。」(全国国公立・こども園長会 2021『幼児教育じほう』３月号)

子どもたちの幸せを願いながら、地域の皆様や保護者の皆様と一緒に子どもたちを育てていきたいと思っています。